

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	甲藤 さち
主な担当科目	室内楽Ⅰ,室内楽Ⅱ,室内楽Ⅱ②,実技個人レッスン[器楽Ⅰ①,器楽Ⅰ②,器楽Ⅰ③,器楽Ⅰ④,器楽実技Ⅱ③,弦・管・打楽器,実技グループレッスン[器楽Ⅱ③]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	長引くコロナ禍、世界的に不穏な空気の中、将来に不安を持つ学生と共に、音楽に携わっていく事が社会に於いてどんな意味を持つのか、生涯を通じて芸術分野に深く造詣を持ち続ける事がいかなる価値を人生にもたらすのかを一緒に考えていく。インターネット社会で人と人の心の交流が希薄になる中で、学生一人ひとりの個性に寄り添い、音楽表現や知識を養う事で自分の主張を自信を持って表現できるコミュニケーション能力を養わせる。
2022年の教育に関する自己評価	コロナ禍において演奏機会が激減した事で、自分自身のスキルを高める時間が減り学生の前で手本となる演奏ができなかった様に感じる一方、学生一人ひとりの多様な背景を理解し、長所を伸ばし短所を克服する事にしっかり時間をかけて向き合う事が出来たと思う。昨年度よりは、先ず教える側が取るべきポジティブな姿勢を貫く事に集中できた。音楽と社会の学生を指導する事で、様々な形で音楽と関わる意義を深く考える機会が増えた。
2022年のFD活動に関する自己評価	様々な背景を持つ学生に対して、どの様な形で音楽と関わり、自身の世界を広げて行く喜びを見出せるのかについて、一步踏み込んだコミュニケーションを取るように努力した。コロナ禍において、感受性の高い学生の心の揺らぎについて、デリケートな姿勢を取る難しさを改めて学んだ。
授業改善のために取り入れた研修内容	学生が自主的に大学の機関を利用し、自身の知識を深め、経験を積む事が出来るよう課題を配慮したり、研究方法についてのディスカッションを行う。他の教員と連携を取りつつ、感染症対策に気を配りながら、分断されがちな学生同士の繋がりを取り持つ方法を考える。

科目名－クラス名

室内楽Ⅰ

曜日時限

木 3時限

担当教員

甲藤 さち

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
演習	2～	前期	1	評価種別	50	0	0	50	0	100
				評価割合	50	0	0	50	0	100

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

第1回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
第2回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第3回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第4回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第5回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第6回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第7回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第8回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第9回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第10回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第11回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第12回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第13回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第14回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第15回	室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ）
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽Ⅰ

曜日時限

木 3時限

担当教員

甲藤 さち

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験				授業内小テスト		
演習	2～	前期	1	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		
				評価割合	50	0	0	50	0	100

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
- 第2回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第3回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第4回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第5回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第6回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第7回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第8回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第9回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第10回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第11回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第12回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第13回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第14回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第15回 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ）
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽 II

曜日時限

木 3時限

担当教員

甲藤 さち

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	2～	後期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				50	0	0	50	0	

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
- 第2回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第3回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第4回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第5回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第6回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第7回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第8回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第9回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第10回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第11回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第12回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第13回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第14回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第15回 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ）
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽 II

曜日時限

木 3時限

担当教員

甲藤 さち

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
演習	2～	後期	1	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				50	0	0	50	0	

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。協調性をもって演奏できるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
- 第2回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第3回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第4回 室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第5回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第6回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第7回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第8回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第9回 室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第10回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
- 第11回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
- 第12回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
- 第13回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
- 第14回 室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
- 第15回 室内楽作品のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ）
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

履修上の注意

特になし

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

■ 教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽Ⅱ②

ハープ・木管

曜日時限

木 3時限

担当教員

甲藤 さち

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験				授業内小テスト		
演習	4～	通年	2	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				評価割合	50	0	0	50	0	100

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。なお、グループ編成は学年を超えて自由に組んでよい。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。①で修得した技術や知識を活かし、さらに協調性のあるアンサンブル能力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
第2回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第3回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第4回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第5回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第6回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第7回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第8回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第9回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第10回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第11回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第12回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第13回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第14回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第15回	室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ）
第16回	室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第17回	室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第18回	室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第19回	室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第20回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第21回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第22回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第23回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第24回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第25回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第26回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第27回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第28回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第29回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第30回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ）

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
前期と後期の最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

器楽 I ①**曜日時限****担当教員**

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
第3回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
第4回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
第5回	各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
第6回	教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
第7回	個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
第8回	音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
第9回	音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
第10回	楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
第11回	演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
第12回	音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ①**曜日時限****担当教員**

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
第3回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
第4回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
第5回	各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
第6回	教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
第7回	個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
第8回	音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
第9回	音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
第10回	楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
第11回	演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
第12回	音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ①**曜日時限****担当教員**

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	1～	通年	6	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	100	0	0	0	0

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
第3回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
第4回	音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
第5回	各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
第6回	教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
第7回	個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
第8回	音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
第9回	音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
第10回	楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
第11回	演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
第12回	音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
- 第3回 音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
- 第4回 音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
- 第5回 各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
- 第6回 教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
- 第7回 個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
- 第8回 音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
- 第9回 音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
- 第10回 楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
- 第11回 演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
- 第12回 音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

基礎的なテクニックや、音楽を学ぶものとしての取り組み方の基本を身につける事ができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 基礎的な練習の必要性ならびに練習の進め方についての演習
- 第3回 音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習1（基礎を中心に）
- 第4回 音階などを用いた、専攻楽器演奏についての演習2（上記の応用）
- 第5回 各自のレベルに合わせた教則本を取り上げ、その教則本が意図している目標を理解する
- 第6回 教則本の目標に沿って的確に演奏できているか、さらに強化すべきことは何かを学ぶ
- 第7回 個々の長所短所を理解し、訓練によって苦手を克服する
- 第8回 音階、教則本に加え、段階に応じて専攻楽器のための作品について取り上げる
- 第9回 音楽作品を演奏する際に大切な、取り組みの姿勢について学ぶ
- 第10回 楽器の音色、音質にこだわって演奏できているかを確認する
- 第11回 演奏を客観的に捉え、いい音程で演奏できているかを確認する
- 第12回 音楽作品を楽譜に忠実に演奏できているかを確認する
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲の楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（エチュード・課題曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 作品Bの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	2～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験課題曲の最終仕上げ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅰ②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 卒業試験課題曲の最終仕上げ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	2～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 テクニックを要する練習曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 テクニックを要する練習曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 テクニックを要する練習曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 オーソドックスな作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 オーソドックスな作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 オーソドックスな作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 オーソドックスな作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 オーソドックスな作品の表現についての演習（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 テクニックを要する作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 テクニックを要する作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 テクニックを要する作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 テクニックを要する作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 テクニックを要する作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 テクニックを要する作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 卒業試験課題曲の最終仕上げ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	3～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	100
				100	0	0	0	0	

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①②で修得した成果をもとに、豊かな表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 重要なレパートリーの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 重要なレパートリーの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 重要なレパートリーの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 重要なレパートリーの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 重要なレパートリーの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 重要なレパートリーの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 技術的に高度な作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 技術的に高度な作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 技術的に高度な作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 技術的に高度な作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 技術的に高度な作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 技術的に高度な作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	3～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①②で修得した成果をもとに、豊かな表現力を身につけることができる。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
- 第2回 重要なレパートリーの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第3回 重要なレパートリーの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第4回 重要なレパートリーの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第5回 重要なレパートリーの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第6回 重要なレパートリーの表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第7回 重要なレパートリーの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第8回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第9回 前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第10回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第11回 前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第12回 前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
- 第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
- 第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
- 第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
- 第17回 技術的に高度な作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第18回 技術的に高度な作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第19回 技術的に高度な作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第20回 技術的に高度な作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第21回 技術的に高度な作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第22回 技術的に高度な作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第23回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
- 第24回 後期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
- 第25回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
- 第26回 後期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
- 第27回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
- 第28回 後期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
- 第29回 後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
- 第30回 後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	4～	通年	6		100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①～③で学修した内容をさらに発展させ、より高度で専門性を持った音楽人として成長ができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	協奏曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	協奏曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	協奏曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	協奏曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	協奏曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	協奏曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	独奏曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	独奏曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	独奏曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	独奏曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	独奏曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	独奏曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験課題曲の最終仕上げと4年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽 I ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	4～	通年	6		100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。①～③で学修した内容をさらに発展させ、より高度で専門性を持った音楽人として成長ができる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	協奏曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	協奏曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	協奏曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	協奏曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	協奏曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	協奏曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	前期実技試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	前期実技試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	前期実技試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	独奏曲の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	独奏曲の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	独奏曲の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	独奏曲の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	独奏曲の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	独奏曲の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	卒業試験で取り上げる作品の演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	卒業試験で取り上げる作品の解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	卒業試験で取り上げる作品の表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	卒業試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	卒業試験課題曲の最終仕上げと4年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅱ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	3～	通年	3	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ③」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①・②で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽実技Ⅱ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト				
実技・実習	3～	通年	3	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目は、弦管打楽器演奏家Ⅰコース・Ⅱコースのための主科実技レッスンであり、「器楽実技Ⅰ③」に付随したものである。演奏家コース生としての目的意識を明確に持ち、専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現を身につける。

学修成果

専攻する弦管打楽器について、プロフェッショナル奏者として国際的に活動するために必要な演奏表現ができ、ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。音楽理論、作品の歴史的背景や様式を理解し、演奏に反映させることができる。①・②で修得した技術や知識を応用し、アーティストとしての能力を総合的に高め、更に感性豊かな表現能力が身に付く。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	後期実技試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	後期実技試験課題曲の最終仕上げと、春休みの課題について

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

弦・管・打楽器

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	0	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	修了試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	修了試験曲の最終仕上げと、1年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

弦・管・打楽器

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	0	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

第1回 オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）

第2回 作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第3回 作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第4回 作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第5回 作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第6回 作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）

第7回 作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第8回 作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第9回 作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第10回 作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第11回 作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第12回 作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）

第13回 前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）

第14回 前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）

第15回 前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について

第16回 夏休み課題の成果確認と後期の目標設定

第17回 作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第18回 作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第19回 作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第20回 作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第21回 作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）

第22回 作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第23回 作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）

第24回 作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）

第25回 作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）

第26回 作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）

第27回 作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）

第28回 作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）

第29回 修了試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）

第30回 修了試験曲の最終仕上げと、1年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

弦・管・打楽器

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	0		100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

本科目は、各自の専攻実技を個人レッスン形式で学ぶものである。個々の力量に応じて、音階、教則本、音楽作品に取り組み、総合的演奏技術の向上を目指す。

学修成果

様々な楽曲に取り組むことにより、演奏家として、また、指導者としての能力を高めることができる。技術の修得のみならず、音楽の背景や作曲家についても学び、楽曲について深く理解した上で色彩感あふれる演奏をすることができるようになる。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（1年間のレッスンの進め方や、練習方法などについて）
第2回	作品Aの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第3回	作品Aの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第4回	作品Aの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第5回	作品Aの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第6回	作品Aの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第7回	作品Aの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第8回	作品Bの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第9回	作品Bの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第10回	作品Bの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第11回	作品Bの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第12回	作品Bの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第13回	前期実技試験に向けたレッスン（楽曲分析）
第14回	前期実技試験に向けたレッスン（曲について理解を深め、演奏をより確実なものにする）
第15回	前期実技試験課題曲の最終仕上げと、夏休みの課題について
第16回	夏休み課題の成果確認と後期の目標設定
第17回	作品Cの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第18回	作品Cの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第19回	作品Cの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第20回	作品Cの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第21回	作品Cの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第22回	作品Cの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第23回	作品Dの演奏についての演習1（音の確認と演奏のポイント）
第24回	作品Dの演奏についての演習2（正確な楽譜の読み取り）
第25回	作品Dの解釈についての演習1（作曲背景などをもとに）
第26回	作品Dの解釈についての演習2（楽譜から読み取る）
第27回	作品Dの表現についての演習1（アイデアを音にする）
第28回	作品Dの表現についての演習2（様々な選択肢を考える）
第29回	修了試験に向けたレッスン（作品についての理解をより深め、演奏をより確実なものにする）
第30回	修了試験曲の最終仕上げと、1年間のまとめ

履修上の注意

個人レッスンの形態では、指導者と学生のコミュニケーションが大切である。礼儀と節度を大切に、毎回のレッスンに臨むこと。無断で欠席したり遅刻しないこと。

■ 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備することは、個人実技レッスンの基本である。授業外の時間で練習の時間を確保し、予習と復習を必ずすること。

■ 教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。

科目名－クラス名

器楽Ⅱ③

曜日時限

担当教員

実技

甲藤 さち

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
実技・実習	3～	通年	2	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	

教育到達目標と概要

専攻する楽器における演奏能力を強化させ、さらに高度な技術を身に付ける事を目指し、演奏の喜びや成長の経験を各々のコースでの学修に反映させることを目標とする。

学修成果

学修者のレベルに応じた課題に取り組む事により、楽器演奏において、技術を強化させることが出来る。器楽演奏を通じて、表現力やコミュニケーション能力を見につけ、各々の専攻実技（専攻コース）への応用力を養うことが出来る。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間計画、レッスンの進め方について、練習方法等）
第2回	デイリー・トレーニング① ロングトーン等
第3回	デイリー・トレーニング② タンギング練習等
第4回	デイリー・トレーニング③ リップスラー、3度以上のスケール練習等
第5回	演奏可能な音域をさらに広げる（各楽器の最高音域～最低音域）
第6回	音階の学修① 調号4つまでの長短調（1オクターブ）
第7回	音階の学修② 調号4つまでの長短調（さらに広い音域への取り組み）
第8回	音階の学修③ 調号4つまでの長短調（スケール練習の方法）
第9回	旋律を用いた演奏① 中級エチュードを用いて
第10回	旋律を用いた演奏② 既成の楽曲を用いて
第11回	正しい音程を出すために① 発声と発音
第12回	正しい音程を出すために② 微細な音程差の認識
第13回	前期試験共演者とのアンサンブル① 曲の始め方、終わり方とその合図
第14回	前期試験共演者とのアンサンブル② ユニゾンや対旋律におけるバランス作り
第15回	前期試験共演者とのアンサンブル③ 他者と同期した音楽表現の研究、演奏の総仕上げ
第16回	前期の復習、後期の目標（試験曲等）設定
第17回	表現方法について① アーティキュレーション（テヌート、スタッカート）
第18回	表現方法について② 楽器特有の奏法と表現方法について
第19回	高度な楽曲への取り組み① 譜読み
第20回	高度な楽曲への取り組み② 高度なテクニックの修得
第21回	高度な楽曲への取り組み③ 高度な音楽表現について
第22回	表現力豊かな演奏① イメージ（発想）を音にするために
第23回	表現力豊かな演奏② ディナーミクとアゴーギクを理解と実践
第24回	表現力豊かな演奏③ 問題点の解決法を探る
第25回	後期試験演奏作品の分析① 作品の時代背景
第26回	後期試験演奏作品の分析② 作曲者の研究
第27回	後期試験演奏作品の分析③ 作品のスタイル（形式）について
第28回	後期試験共演者とのアンサンブル① 呼吸を合わせる
第29回	後期試験共演者とのアンサンブル② 各フレーズの表現方法についての研究とアンサンブル力の強化
第30回	後期試験共演者とのアンサンブル③ 細かなニュアンスを表現する、演奏の総仕上げ

履修上の注意

個々の状況に応じてレッスンを進めていくため、上記の授業計画は必ずしも学修の順序とは限らない。実技試験での伴奏の有無は問わない。2016年度以前入学者対象科目。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

担当教員に指示された課題を次回レッスンまでに準備すること。楽器演奏の修得には練習の反復と継続が必須である。授業外の時間を活用し、日々個人練習の時間を確保すること。

教科書・参考書

担当教員の指示に従うこと。楽譜は著作物であるため安易なコピーを慎むこと。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：1906 教員名：甲藤 さち

1) 評価結果に対する所見

個性や経験値の異なる学生一人一人に寄り添った指導の結果を出せたと思う。

2) 要望への対応・改善方策

高みを目指す学生の更なるレベルアップを図りたい。

3) 今後の課題

自己研鑽を積み、技術面だけでなく、身体面、精神面まで幅広く導けるよう高い指導方法を見出したい。

以 上